



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

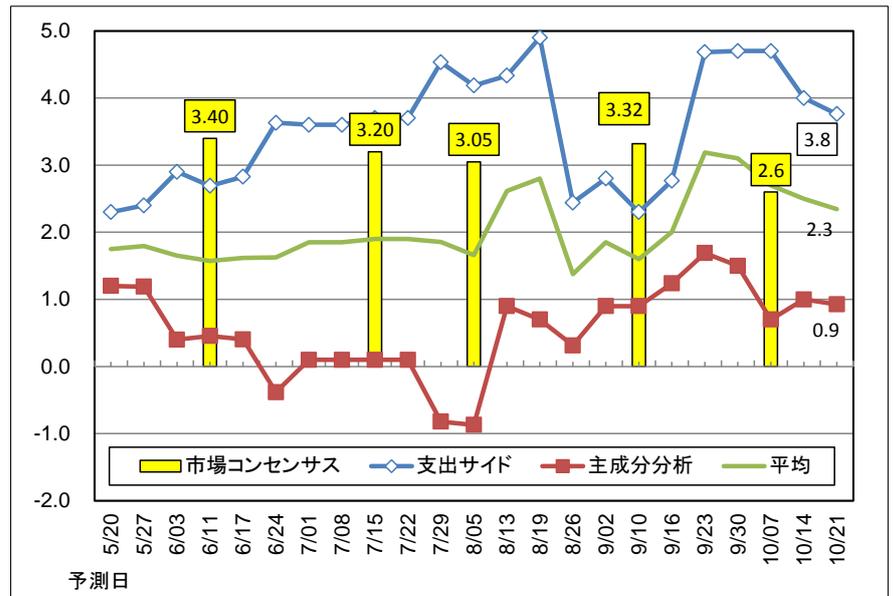
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年10月21日)

ポイント

- ▶先週(10/14-10/18)に更新されたデータは、8月の鉱工業指数(確報値)、毎月勤労統計(確報値)及び建設総合統計である。
- ▶これらは民間企業設備、民間在庫品増加、公的固定資本形成及び雇用者報酬の予測に影響を与える。
- ▶8月の資本財出荷指数(確報値)は事前予測より下方修正。この結果、7-9月期の実質民間企業設備の予測値は先週から下方修正された。
- ▶8月の公共工事は事前予測を幾分下回ったため、7-9月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から小幅下方修正された。
- ▶これらの結果、今週の支出サイドモデルは、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.8%と予測。先週の予測(+4.0%)から下方修正。
- ▶今後については、21日発表の9月貿易統計が注目指標となる。純輸出が事前予測を上回れば7-9月期成長率は前期を上回る高成長となろう。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年7-9月期(%, 前期比年率換算)



<公共投資、7-9月期経済を押し上げる。成長率4%超えは純輸出の回復に依存。>

先週(10/14-10/18)に更新されたデータは、8月の鉱工業指数(確報値)、毎月勤労統計(確報値)及び建設総合統計である。これらのデータは民間企業設備、民間在庫品増加、公的固定資本形成及び雇用者報酬の予測に影響を与える。

8月の資本財出荷指数(確報値)は前月比+0.1%小幅上昇にとどまった。2ヵ月連続のプラスとなったものの、速報値(+2.0%)より下方修正となった。この結果、7-9月期の実質民間企業設備の予測値は先週から幾分下方修正された。

8月の最終需要財在庫指数(確報値)は前月比-1.8%低下し2ヵ月ぶりのマイナス。確報値は速報値とほぼ横ばいとなったため、7-9月期の実質民間在庫品増減の予測値に大きな変化はなかった。

8月の公共工事は前月比-0.8%微減し4ヵ月ぶりのマイナスとなったが、7-8月平均は4-6月平均比+15.7%と大幅増加している。また8月実績は事前予測(-0.1%)を幾分下回ったため、7-9月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から小幅下方修正された。

今週の支出サイドモデルは、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.8%と予測する。内需の寄与は前期から拡大するが純輸出の寄与は小幅のマイナスとなる。今週は民間企業設備と公的固定資本形成の予測値が小幅下方修正されたため、先週の実質GDP成長率予測(+4.0%)から下方修正となった。

今後の見通しについては、21日発表の9月の貿易統計が注目指標となる。純輸出が事前予測を上回れば7-9月期成長率(支出サイド)は前期(+3.8%)を上回る高成長となろう。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690